

## 第2回検討会における 委員及びヒアリング出席者（団長経験者、既参加青年）からの指摘事項

### <団長経験者からの指摘事項>

#### 参加事業の優れた点について

- ・ 訪問先、レクチャー内容等をプログラムに組み込むにあたって、日本青年の要望を反映するなど柔軟な対応ができる点。
- ・ 国の事業であることから、相手国政府の用意する訪問先、交流機会等のクオリティーが高い点。
- ・ 事前研修を合宿形式で実施参加青年の一体感が生まれやすく、国の代表たる自覚の醸成もできる点。
- ・ 長年の事業実施のノウハウ蓄積があり、それをうまく利用している点。
- ・ 国の事業であることから、参加青年の能力や意識が高い点。

#### 参加事業が青年に与えた影響について

- ・ 事業での出会いを活かして、事後交流の機会を持っている点。
- ・ 訪問国の理解を含め国際情勢の再認識の機会が持てるとともに、自国についても深い理解を得ている点。
- ・ 学生にとっては、社会人になるための教育機会及び留学へのきっかけとなっているなど、その後の自己啓発にも影響を与えている点。
- ・ 外国青年との交流を通し、自身の能力を知る機会となっており、その後の自己啓発につながっている点。
- ・ 平和が当たり前の日本青年にとっては、実際に海外に行くことで、国際情勢の緊張感に気づく良い機会となっている点。

#### 参加事業の改善点について

- ・ 事業テーマの達成度測定について検討すべきではないか。
- ・ 帰国報告会の広報を始め、事業への応募者を増やす広報の工夫が必要ではないか。
- ・ 参加青年層に偏り（出身県、社会人・学生など）があり、より幅広い層の参加ができる工夫が必要ではないか。
- ・ ディスカッションの進め方や内容の質を向上すべきではないか。
- ・ 現地視察で得られる理解を深めるため、団長は（引き続き）団員の理解を助けることのできる知見や英語力を持つ者を選任することが望ましい。

### <既参加青年からの指摘事項>

#### 参加事業を通して得たこと及びそれを活かしている点について

- ・分野・年齢の異なる人材とのチームビルディングは、いろいろな衝突も起こるが、他では得がたい経験である点。
- ・国内外の分野を超えたネットワーク構築ができ、それを活用して国を超えた意見交換ができています。
- ・事業で得た経験を周りの者に伝えることで、その者にとっての新たな刺激を与えられている点。
- ・人に話を伝えるには、まず自分が人の話を聞かなければならないと経験を通して学べた点。

#### 参加事業の改善点について

- ・参加青年が既参加青年から今以上に情報を得られる機会を持てるようにすべきではないか。また、地域課題対応人材育成事業では、分野を超えた交流が必要ではないか。
- ・帰国報告会に、より多様な人が参加するための広報に工夫が必要ではないか。
- ・渡航前に、在京大使館を訪問するなど派遣国についてさらに学ぶ機会が必要ではないか。

### <委員からの指摘事項>

#### 事業の更なる充実について

- ・既参加者から参加者への経験の伝達機会をさらに増やすなど、過去の事業経験を活かす体制が重要ではないか。
- ・事業参加に向けての事前準備が重要であり、そのことで青年は問題意識を明確にできるのでないか。
- ・各事業間の交流機会（事業報告会の共通開催など）を通して学びを共有できる機会があるほうがよいのではないか。

#### 事業成果の社会への還元について

- ・身近に挑戦している人がいることは、周りの人間に影響を与えられられる。そのような周りに影響を与えられる青年を育成していく点。  
(厳しい環境でも自らの道を切り開くマインドを持つ青年、自身の経験を周りに共有できる青年の育成。)
- ・他者と深い信頼関係を結ぶことができる青年を育成していく点。

### 事業の募集・広報及び事業参加青年の多様化について

- ・ 社会人の参加者を増やすため、所属組織へのアプローチが必要ではないか。また、研修・訓練機会を模索している企業へのアプローチも効果的ではないか。
- ・ 事業参加で大きな成長をしたロールモデルを生み出すことで、事業へのイメージが変わるのではないか。
- ・ 多様な人材（芸術系の職種など）を選抜する選考方法の変更が必要ではないか。